

電子カルテ 紙カルテ

札幌市医師会
東栄病院

工藤 峰生

私は電子カルテが嫌いです。電子カルテが優れているため、多くの病院、クリニックが電子カルテを導入していることは知っています。しかし好きか嫌いかわかるといわれると、嫌いなのではないのです。

21世紀になって紙カルテだった病院から、電子カルテの病院に異動しました。診療時間が著しく増加しました。決して患者さんに接する時間が増えたわけではありません。電子カルテへの入力時間が増えたからです。それまで処方や検査はオーダーリングシステムを使い便利だと思っていたので、電子カルテに少し期待する気持ちがありました。ところがこんなにひどいことになるとは想像以上でした。患者さんごとに、クリックを繰り返して記録にたどりつき、その後看護記録を読み、画像の確認、採血データの確認を行い、患者さんのところで診察。再びカルテ記載、オーダーの入力、病名の入力。これを十数人分繰り返すと、あっという間に2～3時間は過ぎてしまいます。

数年後、異動した病院は紙カルテでした。病棟回診の時間が有効に使えるようになったと感じました。しかし、容赦なく電子カルテが導入されました。再び患者さんに向き合う時間以外の診療時間が増えました。最近の説明内容をカルテに記載しないと何か起きたとき何も説明していないことになるかと弁護士さんの講演を聴き、カルテ記載をするように心がけています。しかし外来診療中に電子カルテに入力していると時間がかかります。診察と患者さんとの会話の数倍、いやそれ以上時間が経過します。すると予約の患者さんから遅いとクレームが来ます。電子カルテの機能を使いこなしていないから遅いのか、単に入力が遅いのか、おそらく両方なのでしょう。

今の時代、電子カルテはもっと賢くなってもよいのではないかと思います。私が思いつくだけでも、多くの改良すべきことがあります。しかし電子カルテ会社の方は、もっともっとお金を出せば可能とのお返事で、結局断念せざるを得ない状況です。入力する時間が増え、老眼は進み、頭痛、肩こりに悩まされました。

昨年、紙カルテの病院に異動しました。

最近のこと

札幌市医師会
札幌道都病院

北島 義盛

ご縁がありまして、平成29年4月より札幌道都病院で勤務しております。札幌道都病院では総合診療科に所属し、主に内科予約外の患者さんの診療に当たっております。風邪症状、健康診断、ワクチン接種の患者さんを主に担当しています。私自身、もともとは平成4年に札幌医科大学を卒業してから産婦人科医として活動しており、大学では生殖医療に携わっていたこともあり、お隣の札幌東豊病院でも不妊症外来（挙児希望）の患者さんの診療に当たらせていただいております。

産婦人科領域以外の患者さんを診察していく中で、はじめのうちはフィールドの違いがあり、戸惑いがありました。それでも、釧路、北見、室蘭などの総合病院での全館当直の経験を思い出し、さらに平取町、新篠津村、津別町などで内科や外科の外来診療を行ってきたことで、現在は何とか診療しております。

話は変わりますが、先日NHKの朝のニュースで、若宮正子さんという82歳の現役プログラマーを紹介していました。60歳を過ぎてからパソコンを始めて、「hinadan」という高齢者でも楽しめる話題のiPhoneアプリを開発した方です。60歳を過ぎてからでも独学でこのようなことができるのかと感動しました。私自身、ガラケーからスマホに変えてから1年足らずで、電話とメールの機能しか利用できていない状態なのです。

私も気付くと年齢は半世紀が過ぎました。平均寿命から考えると人生の半分を優に過ぎて第4コーナーに向かう（入った？）ところです。ここ何年かで、大学時代に一緒に部活をしていた同期や後輩が病でこの世を去る出来事が起こるようになってきました。今年は平昌オリンピックの日本人アスリートの活躍にエネルギーをもらったので、できる目標を立てながら少しずつ前に進もうと考える今日この頃です。